

令和6年度 湯梨浜町立湯梨浜中学校 学校評価自己評価表

〇校訓・教育目標		〇校訓『三智創造』 〇教育目標 (1)知育・徳育・体育の向上をめざし、未来を切り拓くたくましさをも身につけた生徒の育成 (2)人権を尊重し、人と人とのつながりを大切に、思いやりのある心豊かな生徒の育成 (3)ふるさとに関心を持ち、ふるさとを愛し、地域社会に貢献しようとする生徒の育成 〇めざす生徒像(1)【立志】 (2)【親愛】 (3)【創造】 (4)【郷土愛】									
	今年度の重点目標	今年度の努力事項				具体的な方策	評価指標	中間 評価	最終 評価	中間 総合 評定	学校の所見(中間評価の理由、成果、課題とその改善策)
		項 目		現状とめざす姿 T(教師)、S(生徒)							
1	自らの進路を切り拓く確かな学力の育成	①校内授業研究等により協同学習の授業づくりに努め、主体的に学ぶ生徒の育成を図る。	現状	・校内授業研究会が協同学習の共通実践につながるものになっていない。…T ・12月生徒アンケートでは「勉強はよくわかる」という質問に肯定的な評価をした生徒が79.7%、「協同学習は有意義だ」という質問に肯定的な評価をした生徒が90.7%であった。…S	「みんなで力を出し合って、仲間の学びに＋α！自分の学びに＋α！ つなげよう、深めよう、みんなの思考！」という目指す授業の姿を生徒と教師で実践できている。…T、S	・企画委員会を活用して研究推進を進める。 ・授業研究会の内容(例：共通実践の状況把握、グループ協議、協同学習の理念について学ぶ機会を設定する等)についての見直しを行う。 ・転入職員への研修の機会をつくり、11月の研究会で杉江先生の指導講評を受ける。 ・校外のワークショップへの参加を推進する。	・学校生活アンケート「勉強はよくわかる」で肯定的回答が85%以上。「協同学習は有意義である」で肯定的回答が90%以上。 ・学校生活アンケートで共通実践に関する生徒からの授業評価を行う。 ・共通実践項目に対する教師の自己評価(ふり返り)を行う。	B			①学校生活アンケート「勉強はよくわかる」で肯定的回答が80.9%、「協同学習は有意義である」で肯定的回答が90.9%だった。教員の自己評価でも協同学習の理念を意識しながら授業を行うことができたという意見が多かった。しかし、協同学習の理念を意識しながら授業をしたが、まだまだ手法にとらわれることがあり、理念の定着をよりはかっていく必要がある。そのために、教員を対象に学習課題に関する研修や協同学習についての研修を行い、定着をはかっていくたい。
		②学習規律の定着と家庭学習の充実を図るとともに、基礎学力の確実な定着に努める。		・2分前着席、分離礼が改善されてきている学年やクラスはあるが、全体として徹底できているとは言えない。…T ・授業中の私語や学習用具の忘れ物、離席などが目立つクラスがある。…S ・家庭学習が定着していない。…S	・生徒が50分間授業にしっかりと取り組める。…S ・学級が互いを認め合い高め合える学習集団になっている。…S ・生徒一人ひとりの学ぶ力と教科の力が伸ばせる授業ができている。…T ・家庭学習の習慣が定着し、学習に自主的に取り組める。…S	・「なぜ規律を守ることが必要なのか」(意義や目的)生徒への説明を徹底する。 ・学習担当から具体的な重点項目を出して、全職員で徹底をはかる。 ・具体的な課題を各教科で提示し、指導する。	・ハイパーQU(2学期実施)の質問「学校の勉強には自分から進んで取り組んでいる」の肯定的回答がどのクラスも全国平均より上回っている。 ・学校生活アンケート(12月実施)の「家で自分で計画を立てて勉強している」の項目の結果が、前年度の結果よりもよくなる。 ・CRTで、全国平均以上。	B		B	②1学期の時点でハイパーQUの質問「学校の勉強には自分から進んで取り組んでいる」の肯定的回答が概ね全国平均より上回っていた。学校生活アンケートの「家で自分で計画を立てて勉強している」が53.7%であった。授業規律に関しても学年があがるにつれて授業規律の定着が見られ落ちていく授業に取り組むことのできる生徒が増えている。一方で、授業規律の定着が不十分な場面も見られ、意義について生徒に伝え続けなければならない。また、人の話を黙って最後まで聞くことのできる力をつける必要もあり、生徒に意義を伝えるだけでなくSSTなども実施していく。
		③タブレット1人1台の活用を中心としたICT機器の効果的な活用を進める。		・ICTの使用頻度は上がっているが、うまく活用できているとは言えない。…T ・教員側は授業者によって、知識・スキル、そして取り組みの差が大きい。…T ・生徒がタブレットを文房具として使用する認識が低い。…S	・教員も生徒も、ICTまたは紙媒体のどちらを使用するかを場面に応じて判断し、より自分やねらいにあった方法を用いて学びを進めることができる。…T、S	・教職員はできることを増やしていくために、ICTの活用方法のチェックリストを定期的にチェックする。 ・自ら学ぶ姿勢を忘れず、どの場面でICTを活用するとより効果があるのかを考える姿勢を養う。 ・様々な校務の中で、ICTを使用する頻度を増やしていく。	・町教委のアンケート「タブレットを使って、発表するためのスライドや資料を作ることができるか」の項目で、肯定的評価が90%以上であったが、よくてできるが50%を超えなかった。また、「学習の指導をする際、1週間の授業の中で、どれくらいタブレット、またはPCを活用していますか。(1週間に2回以上)」の項目で、90%以上。 ・町教委アンケート「学習の指導をする際、1週間の授業の中で、どれくらいタブレット、またはPCを活用していますか。(1週間に2回以上)」の項目で、90%以上。	B			③町教委のアンケート「タブレットを使って、発表するためのスライドや資料を作ることができるか」の項目で、肯定的評価が90%以上あったが、よくてできるが50%を超えなかった。また、「学習の指導をする際、1週間の授業の中で、どれくらいタブレット、またはPCを活用していますか。(1週間に2回以上)」の項目で、90%以上だった。学校全体でICTの活用は進んでいる。今後も、研修などを通じて常に新しい情報を仕入れ、それぞれの授業に合わせて活用していく必要がある。生徒のICT端末の使い方についても学習規律と関連して、生徒に意義を伝え続け、保護者にも学校だよりや講演会などで啓蒙を続け協力を仰ぎながら生徒を育てたい。また、生徒のスキルアップのためにiPadの持ち帰りを検討している。本年度中に実施する予定。
2	豊かな人間性の育成	①授業および教育活動全体で、道徳教育、人権教育の充実を図り、よりよい人間関係づくりに努める。	現状	・命や人権の大切さについてはほとんどの生徒が理解しており、実際に互いの個性や良さを認めたり、人の気持ちを大切にしたりしながら自分の思いを主張している生徒が多い。…S ・人権問題の知識や技能に関わる部分で不足している生徒がある。…S ・S ・思いやりのある行動が見受けられる一方、言葉づかいや他をないがしるにする言動が気になる生徒も多い。…S ・学校生活アンケートでは敬語や言葉づかいに気をつけているという生徒が非常に多いが、教職員はまだまだ不十分と感じている。…S	・命、人権の大切さを知っている。…S ・人権問題に関する基本的な知識や技能が身についている。…S ・差別や不合理的に気づいたときに解決しようとするとともに、それを人に伝えるための方法を複数持っている。…S ・他の人の気持ちや意見を大切にしながら自分の思いを主張することができる。…S ・異なった立場の相手の考えと自分の考えの共通点を見出して互いに納得する答えを導き出すことができる。…S ・自他の違いを理解して互いの個性や良さを認めようとする。…S	・協同学習を中心に自ら学ぶ力の育成をはかる。 ・キャリア教育、特別支援教育の充実をはかる。 ・障がいのある人の人権問題など個別具体的な人権問題への理解・人権の概念等普遍的な視点の内容への理解の伸長をはかる。 ・自分や他の人の個性や良さを認める仲間づくりを実践する。 ・ボランティア活動の充実をはかる。 ・多様性に配慮した安心できる学校づくりに努める。 ・個に応じた指導の徹底をはかる。 ・道徳や学級活動の授業を軸に、部落解放月間・人権週間を取り組み、人権教育参観日、人権標語・人権弁論の取り組み、PTA人権教育研修会などを実施していく。	・人権アンケート(11月下旬～12月上旬実施)の各項目の結果が、前年度の結果よりもよくなる。 ・学校生活アンケート(12月実施)の「人権を尊重した生活を送るようになっている」「自分も他人も大切に、他の人のために進んで行動している」の項目で、肯定的回答が8割を超し、且つ12月アンケートでその数値が向上している。	B			①学校生活アンケートの「人権を尊重した生活を送るようになっている」の項目では肯定的評価が95.8%、「自分も他人も大切にし、他の人のために進んで行動している」では93.5%、「敬語や言葉遣いに気をつけている」では95.3%であった。人権をテーマとした全校集会を1学期中に2回行うことができ、部落解放月間の取り組み等、年間指導計画にしたがっての学習の進捗はおおむね良好である。一方、職員対象のアンケートには、日ごろの言葉遣いや仲間に対する態度、生徒指導委員会での事例等、生徒の人権感覚に課題があるとする意見もある。繰り返しの指導が必要な生徒も複数あり、全校集会や道徳・学活等での指導に加えて日常生活の中での細やかな指導を粘り強く行っていく。
		②生徒会活動、学校行事、学級活動を充実させ、集団とともに個の成長も図る。		・執行部を中心に充実した生徒会活動ができたという一面もあるが、生徒個々にはそこまで自主的な活動ができているとは言えない。…S ・学校行事において、運動会を中心に生徒主体の活動をすることができたが、そのためには教員の入念な計画が必要だった。…T、S ・学級活動を通じて生徒をどう育てるのが明確になっていない。…T	・多様な集団活動の中で人間関係を形成することで、コミュニケーション能力が向上したり、リーダーシップなどを学べたりできる。…S ・生徒会活動においては、生徒全員を巻き込んだ活動を展開し、一人一人がよりよい集団をつくるという自覚を育む。 ・学校行事では、生徒会や実行委員会が企画・運営をし、段階的に全校生徒が関わる部分を増やしていく。 ・各教科等の年間指導計画を作成する際に、行事と関連する学習を当該行事の実施時期に合わせるよう配慮する。	・学校生活アンケート(7月、12月実施)の「校内の行事や生徒会・学級活動に積極的に参加している」の項目で、肯定的回答が8割を超し、且つ12月アンケートでその数値が向上している。	B		B	②学校生活アンケートの「校内の行事や生徒会・学級活動に積極的に参加している」の項目では肯定的評価が86.2%であった。生徒会企画・生徒集会をつづいて個人や学級で取り組み意識をもつ生徒が増えた。2学期は、運動会や文化祭の運営、進行等、生徒が主体となって活動する場面を仕組んでいる。	
		③掃除の充実、時間の厳守、挨拶の徹底等の当たり前のレベルの向上を図る。		・掃除、時間、挨拶ともに、多くの生徒が意義を見出せておらず、言われたことを言われたようにやるだけの生徒が多い。中には言われても行動に移せない生徒も多い。…S ・「当たり前」のこととしてやろうとしている生徒もいるが、その思いがなかなか広がっていない。…S	・時間までに掃除を開始し、「時間いっぱい掃除」をめざして活動できる。…S ・朝読書や授業、週学活の開始など、時間を意識して行動できる。…S ・挨拶の大切さを理解し、自分から挨拶をしたり、相手にあいさつを返したりできる。…S	・美化委員会、広報委員会、生活安全委員会を中心に、継続した一貫性のある取り組みを実施し、適宜活動を振り返りながら修正していくことで、掃除や時間を守ることの大切さ、互いに気持ちのいい挨拶をすることの良さを理解できる生徒が増えるようにしていく。	・学校生活アンケートの「自ら進んであいさつをしている」「自ら進んでそうじにがんばっている」「時間を大切にして、生活や学習に取り組んでいる」のすべての項目の結果において、肯定的な回答をする生徒が90%以上になる。	C			③学校生活アンケートの「自ら進んであいさつをしている」の項目では肯定的評価が86.4%、「自ら進んでそうじにがんばっている」では85.2%、「時間を大切にして、生活や学習に取り組んでいる」では94.1%であった。一方、職員対象のアンケートでは、美化の取り組みが不十分であるという意見もある。美化担当区域に行っても何をしたらよいかわからない生徒もあるようなので、改善策として、美化委員会を中心に美化の手順や役割分担の具体を掃除用具入れに貼るなどして示す取り組みを行っていく。
3	健やかな体の育成	①保健体育の授業、部活動をはじめとする様々な教育活動を通して基礎体力を高めるとともに、食育の推進を図る。	現状	・体力テストを見ると、全国平均を下回る種目が多い。特に、筋持久力が3学年とも下回っている。…S ・食べ残すことに抵抗がない生徒がいる。…S	・体力テストで、全種目、男女とも全国平均を上回っている。…S ・自分の定期量を見極めたり、好き嫌いではなく、体調などに応じて食事の量を調整したりする力をつける。…S	・体育の授業の準備運動等において、体力を高める運動を計画的に実施する。また、単元に応じた補強運動も行う。 ・食事の量の調節について指導したり、委員会活動を通じて、定期的に食事の大切さを伝えたりする。	・2学期末に実施する体力テストの学校平均が全国平均を8種目中6種目以上上回る。 ・4月～12月の残菜率の平均が4%を下回る。 ・学校生活アンケート「盛り付けられたものは残さず食べきっている」の項目で80%を上回る。	B			①保健体育の授業を通して、体力向上を図った準備運動を計画的に取り組むことができた。また、2学期以降2度目の体力テストを実施し、数値として自身の体力が向上しているか可視化し、評価を行っている。 給食の1学期の残菜率の平均は3.0%であった。また、学校生活アンケート「盛り付けられたものは残さず食べきっている」の項目では肯定的評価が87.6%であった。学年により差があるため各学年に合わせた指導を2学期も継続して行っていく。
		②生活リズムの確立と自立的な健康づくりに努める。		・昨年10月に実施した生活アンケートの結果、23時までに就寝している生徒が38.5%と就寝時刻が遅い傾向にある。…S ・メディア使用のルールを決めている家庭は61.3%で38.7%の家庭がメディアを自由に使用させている。…S	・生活リズムを意識し、メディアコントロールができる。…S ・23時までに就寝する。…S	・保健体育委員会がメディア使用ルールについて呼びかけ、チェック表で確認する。 ・学校オリエンテーションの際に、保健体育委員長が23時までに寝ることを伝える。 ・生活リズムを整えるように、担任が学級で指導を行う。 ・生活リズムが乱れている生徒に養護教諭が個別指導を行う。	・保健体育委員会のチェック表でメディア使用ルールを80%以上の生徒が守る。 ・生活アンケートで60%以上が23時までに就寝すると回答する。	B		B	②保健の生活アンケートでは23時までに就寝したと48%の生徒が回答しており、昨年度より約10%増加している。メディアに関する指導は、保健体育委員会を中心として呼びかけやチェック(アンケート)に取り組むことができ、自分で決めたメディアルールを91%の生徒が守ることができたに回答した。今後も取り組みに対する目的意識を明確にして指導実践を行っていく。メディアに関する指導は2学期以降の変化も見えていく。
4	教育上の諸課題の解決	①特別支援教育の充実を図り、支援を要する生徒個々の成長を促す指導に努める。	現状	・特別支援担当者が定期的に開催されたことで生徒の状況の共通理解、情報共有ができていく。…T ・交流学級の活動や授業に参加できていない特別支援学級の生徒が4割程度いる。…S ・卒業後の進路について具体的な見通しを持っていない生徒が多い。…S	・インクルーシブ教育システムを構築することで、交流学級での活動に特別支援学級の生徒が参加しやすい仕組みができていく。…T ・卒業後のイメージが持てる進路指導が行えており、生徒一人一人が将来への見通しを持っている。…T、S	・特別支援担当者の定期開催を継続する。 ・特別支援学級担任・教科担当者を学期に1度は開催する。 ・個別的教育支援計画、個別の指導計画を活用する。	・交流学級の授業に参加できない生徒が減少する。 ・学期末懇談を利用して早めの進路目標を確認するなど、進路の実現に向けた支援が充実している。	B			①生徒の状況に合わせて支援をすることができた。支援学級の教科担当者を開き、情報共有をすることができた。交流学級の授業に参加できない生徒は変わらずいるが、常に、生徒と話をしながら声掛けを続けていく。
		②長期欠席の未然防止に努め、不登校生徒の減少を図る。		・不登校生徒の個々の状況が多岐にわたっており、それぞれに合った対応が十分にできていない。…T ・相談室、SCとの関わりの中で改善の見られる生徒もあるが、長期欠席の生徒は増加傾向にある。…S ・学年や担任の取り組みにより継続的な繋がりを持つことが、目に見える変化は困難な状況にある。…S	・欠席が続いているそれぞれの生徒が自分にあった形で自分の目標を設定し、その実現に向けて取り組んでいる。…S ・新規の長期欠席生徒が出ない。…S ・家庭に引きこもっている生徒もすべて何らかの外部機関につながっている。…S	・不登校担当者会(隔週)や学年会(月1回)等の定期的な情報交換の場を持ち、共通理解を図るとともにその対応策を検討する。 ・一人一人の生徒が学級の中で他との繋がりや自己肯定感、自尊感情を持てるような学年、学級経営を行う。 ・授業と家庭をつなぐためのICTの活用。	・新規の長期欠席者が出ていない。 ・完全に外部との関係が持てない生徒がいない。 ・それぞれの生徒の進路希望が100%実現する(3年生)。	B		B	②1学期終了時点で、30日以上欠席者は19名(不登校:13名、病欠6名)である。昨年度と比較して、新規の長欠生徒は出していない。担任が電話連絡・家庭訪問を続けており、不登校だった生徒が短時間でも登校できる場合ができていく。一方、家庭連絡もとれず、本人の様子も確認しづらい生徒もいる。 不登校対策委員会でアセスメントシート等を活用するなど、具体的な対策を提案できるようにする。 長期間家庭に引きこもっている生徒に対して、すらの利用を提案する。また、リモートで学校の様子を伝えるためのICT機器等の購入予算を要求する。
		③郷土芸能、ふるさと探訪、職場体験等、地域に貢献できる生徒の育成に努める。		・1年生郷土芸能体験を1学期に実施したことにより、その後、地域行事に参加する生徒ができた。…S ・1年生は総合的な学習の時間において、地域との関わりが多く、「ふるさと」について関心を持つ場面があるが、学年があがるにつれて活動が減っていく傾向がある。…T ・地域のボランティア活動や地域の行事に生徒が参加する機会がある。…S	・ふるさとを大切に、地域の一人として、地域に貢献しようとする気持ちを持つことができる。	・総合的な学習の時間のねらいのひとつであるキーワード「ふるさと」について、3年間をとおしてどのような学習をしていくのか、つながりのある学習計画を立てる。 ・湯梨浜町で募集しているボランティア活動やその様子を生徒に知らせる。 ・ふるさとについての生徒アンケートを実施する。	・学校生活アンケート「今自分が住んでいる地域や湯梨浜町のことが好きだか」の項目で、肯定的評価が90%を上回る。 ・学校生活アンケート「今自分が住んでいる地域の行事があったときには参加している」の項目で、肯定的評価が50%を上回る。	B			③学校生活アンケート「湯梨浜町のことが好きか」の項目で、肯定的評価が88.5%、「地域の行事があったときには参加している」の項目で、肯定的評価が72.9%であった。地域の資源を活用し、地域の方々と交流しながら、郷土芸能、職場体験、湯梨浜町への提言に取り組め、地域行事に参加する生徒もあつた。 総合的な学習の時間のねらいのひとつであるキーワード「ふるさと」について、3年間をとおしてのつながりのある学習計画を立てる必要がある。内容の精選等、3学期には来年度のおおまかな計画を考えて、教職員に示す。

〔評価の基準〕 A:十分達成されている(目指す姿の80%以上)、B:達成されている(60%以上)…改善の余地あり、C:取り組まれているが、成果が十分でない(40%以上)…方策の見直し、D:取組が不十分(40%未満)